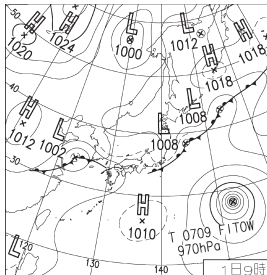


日々の天気図

— No. 68

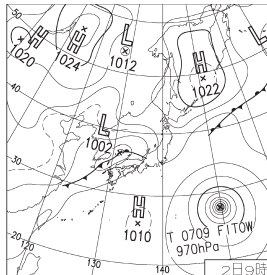
2007年9月

- 6日～8日、首都圏を直撃した台風第9号の影響で東日本を中心に大荒れ。24時間降水量は静岡県伊豆市626.5mm、東京都奥多摩町569mm、最大瞬間風速は静岡県南伊豆町石廊崎54.6m/sなど。
- 18日、台風第12号が通過、沖縄県竹富町上原65.9m/sの最大瞬間風速。(気象庁予報部予報課)



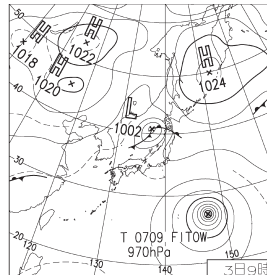
1日(土)全国各地で防災訓練

東北太平洋側～関東は、海上からの北東の空気が流入し、下層雲広がる。日中も日照が無く最高気温は9月中旬～10月中旬並。福島市は平年より7.9℃低い20.6℃。



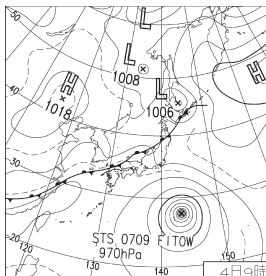
2日(日)西日本は残暑続く

低気圧が日本海西部を北東進。西日本は曇りや雨や雷雨の所も。北～東日本はオホーツク海高気圧圏内で気温上がらず、東北の一部は最高気温10月上旬並。石垣島で竜巻を観測。



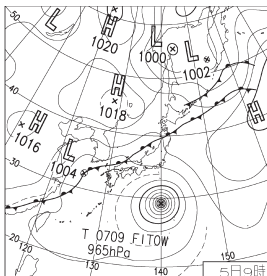
3日(月)西日本で大雨

前線を伴った低気圧が日本海中部を北東進。北日本や本州の日本海側は曇りや雨。本州の太平洋側は概ね晴れたが、西日本の一部で非常に激しい雨。奈良県奈良市で64mm/1h。



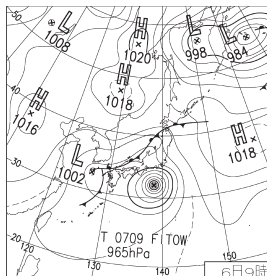
4日(火)台風、父島に接近

台風第9号は父島の暴風域に巻き込みながら北西進。父島は暴風雨となり、最大瞬間風速40.3m/sを観測。小笠原近海は、波の高さ6メートルを超える大しけ。



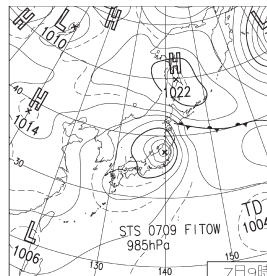
5日(水)台風、伊豆諸島へ接近

台風第9号は、八丈島の南海上に北西進。伊豆諸島は強風域に入り、波の高さ6メートルを超える大しけ。関東地方南部でも波が高まり、所々で雷を伴った雨。



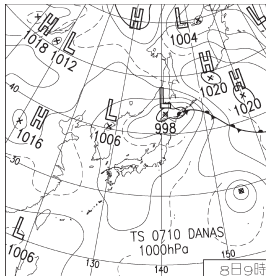
6日(木)台風、関東沿岸に接近

台風第9号は、伊豆諸島の西海上を北上。静岡県南伊豆町石廊崎で最大瞬間風速54.6m/sを観測し9月としての1位を更新。東京都調布市と埼玉県深谷市で竜巻。



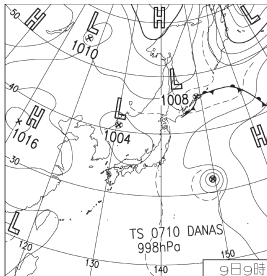
7日(金)台風、東海～東北を縦断

台風第9号は午前0時頃に伊豆半島南部に上陸し、午後には東北地方へ。静岡県や関東の山沿いで500mm/24hを超える大雨。各地の河川ははん濫、首都圏は交通に乱れ。



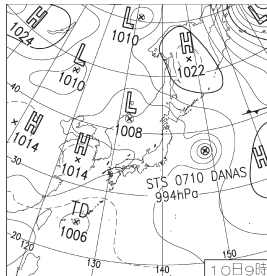
8日(土)台風温低化

台風第9号は、石狩湾付近で温帯低気圧に。東北の太平洋側～関東は真夏日。福島市で最高気温33.9℃、群馬県館林市34.4℃、埼玉県熊谷市34.1℃。前橋市でアキカネ観測。



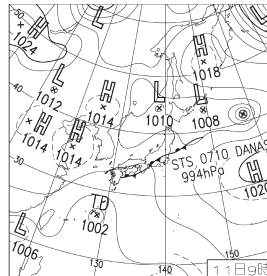
9日(日)台風日本の東を北上

台風第10号は、日本の東海上を北上。東海～西日本は南海上から暖かく湿った空気が流入し、大気の状態が不安定。沖縄近海で熱帯低気圧発生、沖縄県南城市系数で92.5mm/1h。



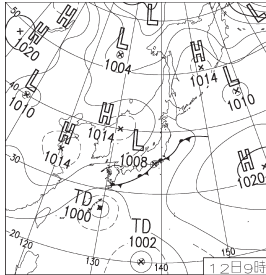
10日(月)大気の状態不安定

本州は弱い気圧の谷に入り、近畿より北は所々で激しい雨。沖縄地方は熱帯低気圧の影響で大雨、沖縄県南城市系数は午前8時までの前24時間降水量241.5mm。



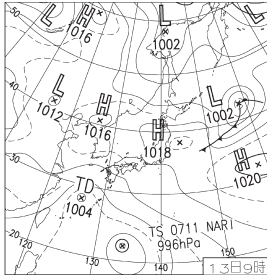
11日(火)熱帯低気圧、北上

前線が頸在化し、関東～四国地方にのびる。各地で激しい雨。三重県鳥羽市で32.5mm/1h、静岡県磐田市33mm/1h、熱帯低気圧の影響を受けた鹿児島県名瀬市で32mm/1h。



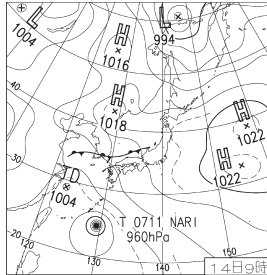
12日(水)スマトラ南部で地震

南岸の前線上に発生した低気圧の影響で九州南部、近畿～北日本にかけて曇りや雨。千葉県東津市で50.5mm/1h、スマトラ南部で地震(Mw8.4：米国地質調査所)。



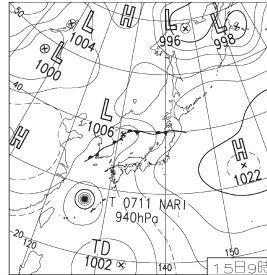
13日(木)台風第11号発生

関東～東海は海上からの東風の影響で沿岸部中心に曇り。北海道は上空の寒気の影響で、九州は熱帯低気圧の影響で曇りや雨。その他は日本海側を中心に晴れ。台風第11号発生。



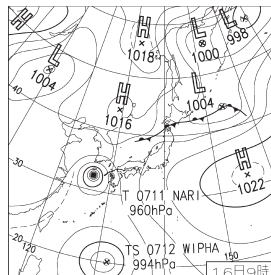
14日(金)台風、沖縄に接近

台風第11号は、沖縄近海を北西進。海上は波の高さ9メートルを超える猛烈なしけ。北海道と東北地方は概ね晴れたが、その他は前線や台風からの湿った空気の影響で曇りや雨。

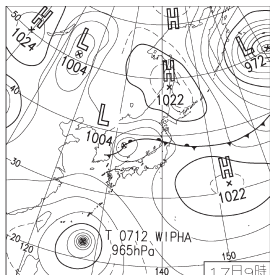


15日(土)台風、勢力を強める

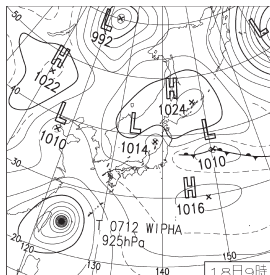
非常に強い台風第11号は、南西諸島を通過して東シナ海を北上。久米島で最大瞬間風速62.8m/sを観測。東海以西の太平洋側は南からの暖かく湿った空気が流入し、所々で雨。



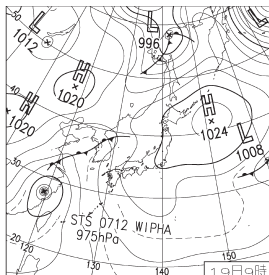
16日(日)各地で激しい雨
西日本～東海では南からの暖かく湿った空気が流入し、所々で激しい雨。福岡県那珂川町55 mm/1h。北陸はフェーンで猛暑日。石川県小松市で35.3℃。



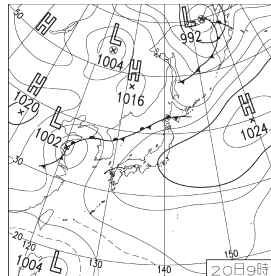
17日(月)台風、温低化
台風第11号は日本海で温帯低気圧に。北日本は前線が停滞し曇りや雨。岩手県花巻市豊沢で275.5 mm/24hなど東北北部は大雨となり被害続出。各地で観測史上1位の値を更新。



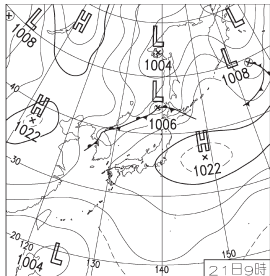
18日(火)台風、先島諸島を通過
台風第12号は非常に強い勢力で西表島付近を通過。先島諸島は激しい暴風雨。沖縄県竹富町上原で最大瞬間風速65.9 m/s。九州を中心に曇り厳しく、熊本市で最高気温36.3℃。



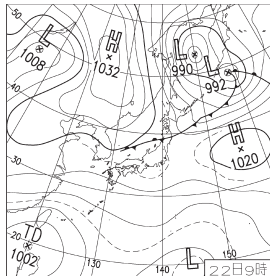
19日(水)台風、中国大陸に上陸
台風第12号は、中国大陸に上陸。北海道は、夜になって前線が接近し一部で雨。東日本の太平洋側は海上からの東風が入り下層雲が広がる。西日本は晴れ、熊本県宇城市で36.4℃。



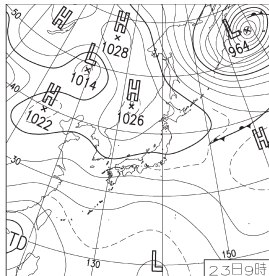
20日(木)彼岸の入り
本州付近は日本のはるか東の高気圧に覆われ概ね晴れ。北海道は前線の影響で雨、四国と南西諸島は、高気圧を回る湿った空気が流入し所々で雨。東日本～西日本は所々で猛暑日。



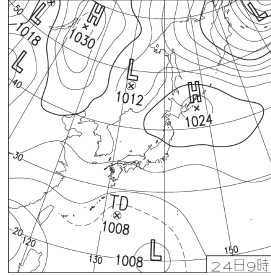
21日(金)全国的に厳しい残暑
西日本太平洋側の一部や南西諸島は曇りや雨。その他は概ね晴れ。北海道の札幌市、帯広市等は南西風の影響で平年を約10℃を上回る暑さとなり、真夏日の最遅日を更新。



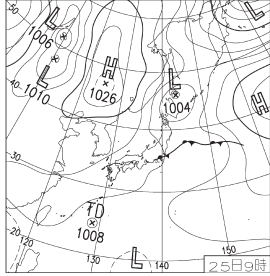
22日(土)夏と秋とのせめぎ合い
前線が北日本に停滞。北日本や北陸は曇りや雨。関東以西は引き続き晴れ。熊本県菊池市木柑子で35.2℃など、残暑続く。西日本や南西諸島は湿った空気が入り所々で雨。



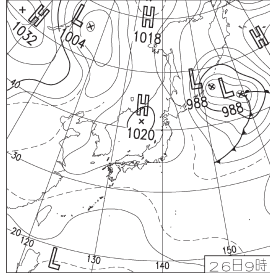
23日(日)北日本は秋らしく
北日本は秋晴れとなるが、本州付近は東西にのびる帯状の雲がかかる。北海道上士幌町糠平で最低気温0.5℃。東日本以西は大気の状態が不安定。岐阜県八百津町で99 mm/1h。



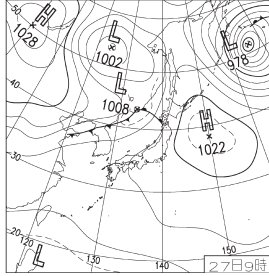
24日(月)北海道で氷点下
北日本中心に今年一番の寒さとなり、北海道幌加内町朱鞠内で-0.2℃を観測。東日本から西日本は曇りや雨。西日本は真夏日の所も。台風第13号は海南島へ上陸。



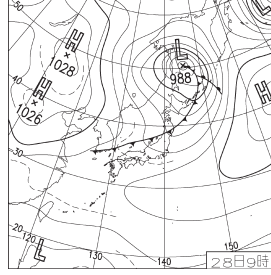
25日(火)中秋の名月
低気圧の影響で北海道は弱い雨。大雪山旭岳で初冠雪。東日本の太平洋側は未明から朝のうちにかけ弱い雨。日中は晴れ。熊谷市、岐阜市、名古屋市などで真夏日の残暑。



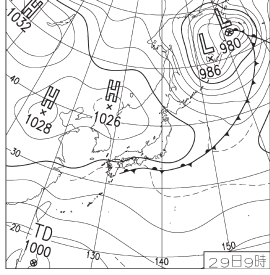
26日(水)全国的にほぼ秋晴れ
北日本～西日本は、日本海の高気圧に広く覆われる。朝のうち北海道の一部で弱い雨が降った他は、ほぼ全国的に秋晴れ。名古屋市で平年より19日遅いススキ開花。



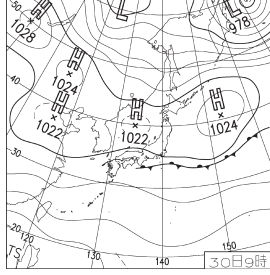
27日(木)東京でアキアカネ
高気圧は東の海上に抜け、前線を伴った低気圧が日本海を東進。北海道は曇りや雨。高気圧の縁を回る南東の風の影響を受けた東～西日本の太平洋側の所々で曇りや雨のち晴れ。



28日(金)寒冷前線通過
発達した低気圧からのびる前線が北日本～西日本を通過。北日本の日本海側と北陸・山陰は所々で雨。関東も日中晴れて真夏日となるが、夜は雨。前線通過後は気温急下降。



29日(土)利尻山初冠雪
寒気流入が強まった北海道で筋状雲が現われる。稚内の利尻山で初冠雪を観測。関東地方は前線や海上からの北東風の影響で終日小雨が続き、日中の気温は10月上旬並み。



30日(日)台風第14号発生
前線の影響で東北南部～九州まで雨や曇り。高気圧に覆われた北海道、東北北部、南西諸島は概ね晴れ。東日本の日中の気温は平年より4℃～8℃低く、11月初旬～中旬頃並。

訂正とお詫び

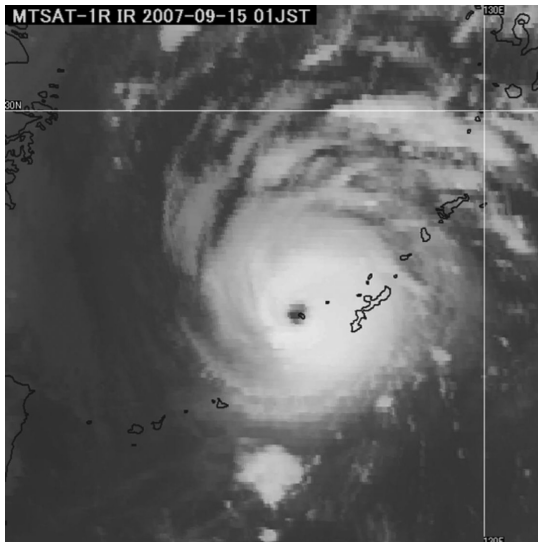
「天気」54巻 8号720ページに掲載の6月13日9時の天気図に誤りがありました。大変ご迷惑をおかけいたしました。以下のように訂正いたします。

サハリン付近の低気圧の中心気圧
(誤) 994 hPa
(正) 996 hPa

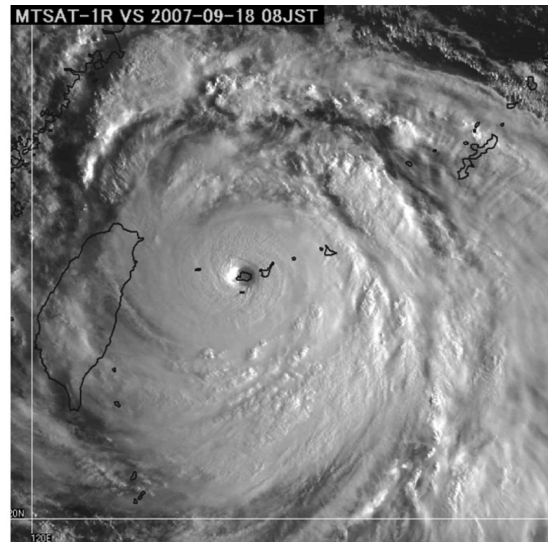


今月のひまわり画像—2007年9月

島の真上を通過した二つの台風



9月15日1時の赤外画像



9月18日8時の可視画像

9月中旬、明瞭な眼を持つ非常に強い台風第11号、第12号が、相次いで沖縄県の島の真上を通過した。一般的に台風の一生は、発生期・発達期・最盛期・衰弱期の4つの段階に分けられるが、沖縄付近に接近する台風のほとんどは発達期または最盛期のものであり、眼が確認できることも多い。写真左は、9月15日1時の赤外画像である。台風第11号が久米島付近を通過中で、眼が明瞭に解析できる。台風の眼は赤外画像では、冷たい（白い）濃密な雲域の中にある相対的に暖かい（黒い）部分である。久米島では、この直後の1時30分頃、最大瞬間風速62.8 m/s（同島の観測史上1位）を観測した。そのわずか3日後、台風第12号が西表島を通過し、同島で最大瞬間風速65.9 m/s（同島の観測史上2位）の猛烈な風を観測した。写真右は9月18日8時の可視画像である。台風第12号の眼が西表島付近にあり、眼を取り囲む円形をした活発な対流雲域が見られる。

台風の強度（最大風速及び中心気圧）は、米軍機による観測が廃止された1987年8月以降、雲画像から解析できる雲パターンや雲域の輝度温度などから推定している。この推定方法はDvorak法と呼ばれ、たとえば写真左のように、赤外画像で眼の輝度温度が暖かく、眼の壁雲（Eye wall）の輝度温度が冷たいほど、強い台風として解析できる。Dvorak法による解析では、撮像時の台風を中心気圧は、第11号（写真左）が937 hPa、第12号（写真右）が926 hPaと推定できた。久米島、西表島で観測された最低海面気圧はそれぞれ933.9 hPa、926.8 hPaであり、Dvorak法による推定気圧と良い対応を示していた。

今回の2つの台風は、気圧が観測できる島の真上を通過するという、Dvorak法による気圧推定を検証する絶好の機会となった。

（気象庁予報部予報課 池田博文）